



令和4年度
4月号
4月7日発行

記念樹と共に

学校長 西尾武泰

春本番を感じる気持ちの良い季節となりました。令和4年度のスタートです。

駒林小には12本の桜がありますが、今年も見事に満開になりました。学校の横の歩道を歩いている親子



が、桜の前で足を止め、見上げた後に一緒に写真を撮っている微笑ましい姿も見られました。そのような桜の中でも特に南門の近くにある桜は見事な枝ぶりです。この木は人生記念樹となっており、「昭和47年」というプレートが掛けられています。昭和47年は西暦だと1972年、今年が2022年なのでちょうど50年前に植えられた桜です。本校は昭和48年4月1日に開校（50周年記念行事は来年度）なので開校時に植えられた桜だという事が分かります。

この場所で50年前に植えられ、春にはこれまで50回も花を咲かせ、夏には葉を生い茂らせ日陰を作り、駒林小の子どもたちを見守ってきた桜です。私はこの桜を見つめながら、これまでの駒林小の歴史に想いを巡らせ、桜に向かって今年度の決意を新たにしました。

さて、本校の特色として、「あいさつ」「たてわり」「歌」の3本柱があります。「あいさつ」は、南門で私が登校指導をしていると、きちんと止まってあいさつをする子が増えてきました。「たてわり」は異学年交流をすることにより、他の子への思いやりの心が育ってきました。「歌」については、みんなで心をひとつにして歌うことからコミュニケーションの向上と達成感につながりました。自慢の校歌を自信を持って歌えること、毎月の歌を児童全員で歌い互いの声を聴き合うことができるように今年度も指導をしていきます。これらの3本柱はコロナ禍で指導が難しいことも多いですが、工夫をしながら継続して指導をしていきます。

これまでの駒林の子どもたちが記念樹と共にキラキラと輝いた学校生活を送ってきたように、今年度も地域・保護者の方々と十分な連携をとりながら活動していきますので変わらぬご支援とご協力をよろしくお願いいたします。